

みどり と ひと

吉祥寺北町在住
横山由佳利、ベザリ・ウォルターさんご夫妻

フランスと日本で同時に進む自然回帰

フランス生まれのウォルターさんと由佳利さんご夫妻は、1999年にフランスでご結婚。25年前に武蔵野市に居を構え、日本を拠点にして、フランスのグラフィックノベルの彩色家としてお仕事をされているそうです。



武蔵野市には長年住んでこれましたが、ご近所とのお付き合いはあまり多くなかったそうです。ところが3年ほど前、吉祥寺北町の緑地で花壇の手入れや草刈りなどのボランティア活動に参加したことをきっかけに、ご近所との交流が増えたとか。

「夏は毎年フランスに1か月ほど帰ります。今年も8月に、ウォルターの実家のあるブルターニュ地方で夏休みを過ごしました。」お二人は日本の植物にかかわるようになってから、フランスの緑地を今までと違った視点で見えるようになったそうです。とくにロワール川沿いのナントでは、植物の見せ方が非常に変化していることに衝撃を受けたといいます。

「以前は、フランスではヴェルサイユ宮殿に代表されるような、左右対称で幾何学的な構成の庭園が主流でしたが、近ごろは植物本来の自然な動きを生かした野性的な植栽が増え、のびのびと育ったみどりが古い建築にも融け合って、風景にゆとりの雰囲気が感じられました。」コロナ後はこうしたみどりのある空間での散歩や読書、ピクニックを楽しむ人が増えているそうです。



このような「自然回帰」の傾向は吉祥寺の近隣の花壇や緑地でも見られます。植物の生命力と個性を生かした植栽が日本でも好まれてきているのかもしれません。

ナントの中心部にあるユニークな“庭園”。コンクリートに囲まれた小さな中庭が、まるでジャングルのようになっている。1994年にナントに住み始めた一人のアーティストが小さな鉢植えから少しずつ広げていったという

むさしの緑・環境の情報誌

みちまちみどり Vol.44

2025年10月第1刷発行 制作／一般社団法人グリーンボード

発行／武蔵野市 商用・非商用を問わず、無断転用、複写、転用を禁じます。

特集

武蔵野の歴史とみどり散歩
「むさしのの道」昔と今

むさしの 緑・環境の情報誌

み ま み
ど ち ち
り
Vol.44
2025 autumn

表紙イラスト「ツリバナ」

「むさしの道」

武蔵野市には風情のある道がいくつも存在します。家族で楽しむ緑道も、ふだん何気なく歩いている生活道路も、その道が生まれた背景をたどれば様々な歴史が見えてきます。人々が苦勞してつくり、大切に守り継いできた大いなる遺産とみどりを探しに行きませんか。

① 玉川上水沿いの道

玉川上水は江戸への上水道として承応2(1653)年に開かれました。多摩川の羽村取水口から四谷大木戸までの43kmという壮大な事業は、玉川兄弟(庄右衛門と清右衛門)によって、わずか7か月で完成したと 言われています。江戸の土木技術おそろべし！

現在の上水沿いはゆったりした散策路で、木々におおわれた林のような場所もあります。春はやはり桜並木が楽しみ。桜は徳川八代将軍吉宗の時に植えられ、その後「小金井桜」として有名になり、浮世絵にも描かれて江戸近隣の人々の観光地となりました。

上水は明治時代には物資を運ぶ水路として利用されたこともあります。水が汚れ2年後には禁止されました。その後昭和に入ると玉川上水を埋めて道路にする計画も持ち上がりました。しかし多くの文化人が声をあげ、玉川上水を守る市民運動も盛んになりました。その結果、清流復活事業が始まり、上水の流れはよみがえりました。周囲の自然景観も残され、市民の憩いの場となっています。



けやき橋から西に向かう土の道は足裏にやさしい。雨上がりには
枯葉、草花、土の匂いなどが混じりあった自然の香りに包まれる



桜の季節は上水の大橋あたりは華やかで優美



関前の旧家伊藤家に伝わる
大ツバキで樹高約9m。春
に一重で紅色の花が満開に



② 大師通り

大師通りはかつて玉川上水の大橋を経て深大寺と旧関前村などを結ぶ参詣道でした。現在は浄水場北の、大ツバキのある伊藤家の東から始まります。北に進むと小川や竹林、雑木のあるどかな雰囲気の市民の森公園を経て、五日市街道沿いにある名主だった井口家の畑の中にある大ツバキを遠くに望み、小川小川から伏見通りまでの道です。

*大ツバキは個人宅にあります。敷地内に立ち入らない様にお願いいたします。

③ グリーンパーク緑地（遊歩道）

武蔵野中央公園あたり一帯は戦時中に「中島飛行機武蔵製作所」があった場所で、零戦など軍用機のエンジンを製造していました。戦後その跡地に「東京スタジアム」が造られ、工場へ資材の輸送をしていた引き込み線は、スタジアムへの観客輸送のため昭和34年まで利用されました。その線路跡地が現在の遊歩道です。

散策は引き込み線の橋台のあったぎんなん橋から歩を進めます。井ノ頭通りを渡ると開けた広場があり、ここに「関前高射砲陣地跡」があります。その先にはトンボ池のある「関前公園」。そこから北に進むと藤棚が見え、広場や水辺の植物が充実しているピオトープがあります。さらに進むと木々の間から武蔵野中央公園が見えます。これが中島飛行機の工場跡地で緑地の終点です。



緑地のピオトープ
小さな橋、水辺の草、ヤナギなど自然を
感じるみどり豊かな空間



ピオトープの向かいの緑地
オオバコやクローバーが広がり、タヌキ、
コゲラ、カルガモを見かけることも



ごみ総合対策課 TEL 0422-60-1802

武蔵野市×FRY to FLY Project
～使用済み油で空を飛ぶ!?～

11月16日に開催される「第18回むさしの環境フェスタ」において、ご家庭で使わなくなった食用油（廃食用油）を回収します。最新の技術を用いると廃食用油から持続可能な航空燃料（SAF）をつくることができます。従来の航空燃料に比べてCO₂の排出量をおよそ80%削減することができます。地球にやさしい活動に取り組みませんか？当日はVR体験も行います。詳細はホームページをご確認ください。



使用済み油で空を飛ぶ!?



環境政策課:計画係 TEL 0422-60-1841

市内の生きものの調査を行いました

私たちの身の回りには、さまざまな生きものが生息・生育しています。生きものたちを守り、豊かな自然を未来につないでいくため、武蔵野市は生物多様性を保全する取り組みの一つとして、概ね5年おきに市内の生きものの生息状況調査を行っています。

令和6年度は、専門の調査員が実施する調査のほか、市民の生きものへの関心を高めるため、親子で土の中の生物や冬に活動する蛾を探し、生きものの習性や生態を学ぶ市民参加のイベントも併せて実施しました。



生息が確認できた
ツミ（タカ科）



令和6年度
生物生息状況調査

下水道課 TEL 0422-60-1867

下水道の老朽化対策を進めています

現在、市内にある下水道のうち約7割が耐用年数50年を超えているという背景を踏まえ、市民のみなさまの安全・安心を確保していくために、以下のような対策を実施しています。

- 下水道ストックマネジメント計画による対策
- 大規模下水道管路特別重点調査
- 日常的な維持管理



武蔵野市HP
老朽化対策について



緑のまち推進課公園係 TEL 0422-60-1864

十一小路緑地を整備します

- 公園の所在 吉祥寺東町2丁目24番地内
- コンセプト 「さくらの庭」

既存樹木を活かしつつ、「さくら」のある空間を展開しました。さくらの花を長い期間楽しめるようにソメイヨシノ（既存樹）の開花時期以外に開花する樹種も選定しています。

令和6年度に実施した意見交換会を踏まえ設計を行い、今年度整備を行います。開園は、令和8年の春頃を予定しております。



整備イメージパース

緑のまち推進課緑化係 TEL 0422-60-1863

身近な緑を創出する～接道部緑化助成制度～

目に触れる身近な緑を増やし、快適で安全な生活環境をつくるため新たな接道部緑化費用の一部を助成します。

助成の対象となる接道部緑化は、建築基準法で規定する道路に面し、接道面より容易に見通せる5m以内の範囲で、生垣（四ツ目垣を組んだ垣根）または高木・中木・低木等（地被を除く）の新たな植栽を連続して延長3m以上植えるものです。



ブロック塀などを取壊して接道部緑化する場合は、その取壊し費用も対象となる場合があります。

必ず工事着手前に、時間に余裕を持ち図面を持参の上、窓口で助成の対象かをご相談ください。

詳細は、市公式HPをご覧ください。

緑化推進に関わる助成について



編集 / 鈴木圭子 明石和美
小出行観 牧野桂子
デザイン / 奥富佳津枝
イラスト / 奥山英治（P4 樹木）
木村文（表紙、P6,7）
編集顧問 / 中村滋

お問合せ先

武蔵野市環境部緑のまち推進課

〒180-0777 武蔵野市緑町2-2-28

☎ 0422-60-1863

e-mail SEC-MIDORI@city.musashino.lg.jp



武蔵野市公式HP
「みちまみどり」